

【中区】令和6年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和6年9月6日 午後1時30分 ～ 午後3時30分
場 所	中区役所7階 703会議室・704会議室
出席者	<p>【座 長】福島直子議員</p> <p>【議員：2名】松本研議員、伊波俊之助議員</p> <p>【中区：26名】小林英二区長、曾我幸治副区長、木村博和福祉保健センター長、新井隆哲福祉保健センター担当部長、田邊栄久中消防署長、青木隆浩中土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和5年度中区個性ある区づくり推進費決算状況について</p> <p>2 令和5年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業実績について</p> <p>3 令和6年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業執行状況について</p> <p>4 令和7年度中区個性ある区づくり推進費予算編成の考え方について(案)</p> <p>5 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題1 令和5年度中区個性ある区づくり推進費決算状況について</p> <p>議題2 令和5年度中区個性ある区づくり推進費自主企画事業実績について</p> <p>伊波議員：日々、区役所の職員の皆さんの窓口業務を含めて区民の皆さんに寄り添って対応いただき敬意を申し上げます。目標設定すれば、目標の数字や、実績が伴います。予算に対して決算があると思いますがそのようなことも踏まえながら、質問をさせていただきたいと思います。先ほど南海トラフ及び台風に対する対策について御説明いただきました。消防局はじめ、中消防署も含めて体制をとっていただいたと思います。数日間にわたり、近年ない形だったと思います。7時半頃だったと思うのですが、土砂災害警戒情報が発表されました。区役所での避難所設置が9時40分、このタイムラグはどう捉えているのか。7時半の時点だと登庁時間前だったことも一つあるのですが、台風ですから予測ができる、総合的に見てその部分はどうだったのか、一生懸命やっていた上でできる最善の策だったとも捉えています。区長はどのようにお考えになっていますでしょうか。</p> <p>小林区長：御指摘いただきましたように、時間がかかったことについて、</p>

反省材料として考えております。今仰っていただきましたように時間が出勤時刻と重なったことも一つ起因していると考えます。今後、気象庁も各交通手段の計画運休に備えてもう少し早いタイミングで台風情報を出す検討がなされていると聞いておりますので、そのような情報にも十分注意を払いながら、避難者が避難しようと思ったときにすぐに受け入れられる体制作りをしていきたいと思っております。

伊波議員：風水害は区役所、地震は地域、そういった役割分担の関係もあると思っております。夜間の案内サインも、この会議でも発言させていただきましたが、しっかりと対応していただきました。勇気を持って避難されてくる方々が迷わず、避難所にたどり着けることが大事ですので、私たちも市の決算が始まりますから、やっていきたいところですし、区からも市に働きかけていただきたいと思っております。

高齢者の問題について、5ページの3の交通安全対策ですけれども、不慮の事故に関して、中区は観光客も多く、昼夜間人口の違いもありますし、こうした会議に警察の方へ出席いただきたいのがかねてからの要望です。議員団会議は小林区長になってから御出席いただいておりますが、市議員の皆さんとのこのような場面で、中区は四つの警察署がありますから、市議員会議の席でも報告をお願いしたい。市議員としての要望もありますので、お願いしたいと思っております。

ポスターコンクール開催が4月から12月とあります。別館での展示だったと思っておりますが、先ほどの「中なかいいネ！」が市役所での展示でした。経済的な話で恐縮ですが、別館や市役所となると無料で足を運んでいただける場所ですが、中区には有料施設がいくつもあります。例えば三溪園など、入園するのにお金がかかる部分もあるかもしれませんが、考えてもいいのではないのでしょうか。観光名所もたくさんある中で、そのようなところでも展示をしてみるというのはいかがでしょうか。

小林区長：仰るとおりと思っております。去年は先生からも、もっと地域に出ていき、地区センターなどで展示をして皆さん見ていただいた方が良いという提案をいただきました。今年につきましては、マリントワーに御協力いただきましてマリントワーに関連する作品を8月31日までマリントワー2階の無料で入れるスペースで展示していただきました。来場者数については把握できていませんが、いろいろな所で多くの方に御覧いただく取組を今後も続けていきたいと思っております。

伊波議員：コンパス事業で101人申込、当選者82人、実際に参加されたの

が、51人です。当然ながら、これに限らず落選された方々もいらっしゃる。行きたくても行けなかったなど、そのような報告もあると思います。子どもですから、当日突然の発熱による欠席などあると思いますが、例えば90人の定員に対し101人申込であれば全て101人当選でいいのではないですか。実際の参加者が51名と定員に対して少なくなったことについての対応を、担当の部門は考えていらっしゃるかお聞きします。

稲葉こども家庭支援課長：昨年度は申込みが多かった一方、キャンセルも当日の病気等でかなり出たため、今年度から平均的なキャンセルがどのくらいか調べ、キャンセル分を見込んだ数を当選とるようにしています。また一度キャンセルされた方にも次の講座にいかがですか、と声掛けをしております。できるだけ多くの方に参加していただけるよう、少し多めに当選させたいと思います。

伊波議員：せっかく担当の方々が知恵を絞って計画された内容なので、1人でも多くの方に参加していただくことが大切だと思います。子育てについても、例えばもう子どもが20歳を過ぎた方も子育て経験者ですし、うちの子どもも11歳になっていますが、現在未就園の子どもたち、生まれて間もない子どもの子育てをしている方もいる。数年経つと現状の子育てとこれまで経験した私たちの子育てとは違うと思います。計画を練るときは、現在、例えば未就園の子どもたちを育てている職員の方々の思いをしっかりと吸い上げるとか、柔軟な形で捉えていただければと思っています。

中区愛はぐくみ事業の部分で区長から写真部がつくられたと話がありました。子どもたちが参加したことで新たな部分が出てきたと思い、嬉しく感じています。地域課題を地域の皆さんが連携して取り組んでいますけれども、地域のアドバイザー派遣が5年度の予算は残という形があります。確認ですがアドバイザーは登録制ですか。

木村地域振興課長：登録制ではございません。アドバイザー派遣依頼の内容は様々です。依頼者側が指定してくる場合もあれば、対応できる方を我々が探す場合もあります。なか区民活動センターに登録されている方が活用できれば活用するのですが、難しい場合にはいろいろ探すなど調整しています。

伊波議員：このアドバイザーも登録したら、はいどうぞ、ではなくて、アドバイザーの方がどういう方なのかを吟味したうえで、細かくマッチングいただければと思っています。

土木事務所にお伺いしたいのですが、例えば切り下げの問題。制度ができたときはまだ高齢者福祉の問題はなかったと思います。これからの時代では、車いすの方が増えてくると思います。そのときに、切り下げ等、今後の事を想定して手を打っているとかその点はどう思われますか。

青木中土木事務所長：何か先に手を打っていることは無いのですが、ただバリアフリー関係については計画を立てていますし、また、駅前だけでなく、あらゆるところで不具合の指摘がありましたら、やれることはやっていきたいと思います。

伊波議員：福祉関係の部署や、子育て関係の部署と連携をしていただいて、こういう所が危ないよ、などの情報を踏まえて進めてほしい。

これから人口が減少して子どもが少なくなり、高齢者がどんどん多くなります。今一度、この中区に住んでみたい、住んでよかったと、と言える形の防災しかり、まちづくりしかり取り組んでいただきたいと思います。

小林区長：中区をどのようなまちにしていくかということを中心に日々考えているわけですが、その中でも、毎年度中区の運営方針にも記載をさせていただいております、これは私の前の区長からあえて変えていない部分なのですが、住んで良し、働いて良し、訪れて良しということをまちづくりの基本、そして、安全で活力のあるまち、これもずっと中区はこれを掲げてやっております。先生から御指摘いただきましたように、本当に皆が住みやすい地域で安心して暮らすことができるまちづくりに先生方の御指導をいただきながら、引続き取り組んでいきたいと思っています。

松本議員：災害時の担い手育成事業のことで伺います。これも数年前から続けられていると思います。小学校、中学校、高校の生徒さんたちに災害時に担い手としてどういうものを期待しているのでしょうか。

婦山総務課長：児童、生徒自身の防災意識を高めていただくとともに、学んだことを自宅に持ち帰って家族と共有することで家庭の防災力を高めていただくこと、さらに実際の発災の時間帯にもよりますが、防災拠点、つまり学校で実際に拠点の運営に関わっていただくことを期待しているところもございますので、そういった形での担い手であります。

松本議員：そのような情報をもとに学校で出前授業をやっていると思います。具体的に出前授業でどんな内容をやっているのでしょうか。

婦山総務課長：防災講話がありまして、防災に関する全般的な知識が主に

なりますが、地域防災拠点の運営に関する話もしております。

松本議員：防災拠点の訓練、各地域で見ると、いずれも高齢者の方が多く、何をしたらいいのか分からない、という方が多くいらっしゃいます。小学校の場合は、子どもたちは子どもたちで訓練をやっている。それは大人とはまた違う部分でやっているような気がします。そのような場合、防災拠点の中で若い方々の担い手が本当に力を発揮いただけるのか、また拠点で若い人たちに何を期待しているかということをしかりと訓練の中で、講話の中で伝えなければいけない。そのような活動を地域の人たちも分かっていないと、災害のときに地域のお年寄りが避難するのを助けようとしたときに、顔すらも分からないのでは子どもたちが何もできないことが想定されるので、子どもたちがそこで学ぶだけではなくて地域との接点を作っていないとせっかく努力しても効果が出てこないと思います。先ほど伊波先生からもお話がありましたけど、事業実施にあたって本当に効果があるものなのか検証しなければいけないと思います。

その子どもたちの担い手がどのような活動をしていくのか、例えば高齢者の方々がマンションに住んでいる、そんな大規模なマンションではなくても電気が止まってしまえば避難ができない、水道が止まれば水を運ばなければいけない。自治会組織にも入っていない方も多くいらっしゃる。例えば子どもたちがある程度の体力がある中学生、高校生の方々はこういう類のお手伝いをしてもらいたい、という具体的な話を持ちかけないと、災害が起きた時にどうしたらいいのか一般的なところで終わってしまうと思います。

難しいところもあると思うのですが、そのような目的をもってこれから進めていただければと思います。

小林区長：これから地域防災拠点の訓練も本格化してまいります。今年度は私も地域防災訓練に伺って意見交換をするなど、あるいは区政全般の話として、学校との連携というところを、我々も学校連携担当という組織がございますので、学校と情報の交換を行ってお互いのニーズやどんなことが必要かを、時間をかけずに整理をしてまいりたいと考えています。

松本議員：防災関係では先だつての台風が近づいたときに、土砂災害警戒区域の方々に対しては避難の呼びかけをされたと思います。即時避難指示対象区域にお住まいの方々にポストに投げ込みすると伺っていまし

た。今回のケースでも行われたのですか。

梶山総務課長：即時避難指示対象区域の方におかれましては、今年度も出水期前の5月に注意喚起のポスティングをしています。今回台風10号接近時におきましても、広報車で対象地域を巡回いたしまして、「避難所を開設していますので避難してください」という内容の広報をしております。

松本議員：高齢者の方々は避難場所が開設されていることが分からないこともあります。広報車を回すことも一つの手段ですけど、地域の消防団との連携も大切だと思います。今回は消防団と連携はありましたか。

田邊中消防署長：消防団も今回の台風で出動の準備をしていましたが、避難所の関係で巡回はしていません。

松本議員：災害はいつ大きな土砂災害に結びつくのかわからないということで、決して侮ってはいけないと思います。防火の広報でも回ったりされています。区の広報だけでなく、災害が起きても皆様の命が守れるように消防団との連携を強めていただきたいと思います。

みんなで子育て事業の外遊び応援事業につきまして、4月から10月にかけて多くの子どもたちが参加しているとのことですが、これは具体的に親子でどんな外遊びをされているのですか。

稲葉こども家庭支援課長：公園に親子で集まっていただきまして、砂遊びや滑り台、ブランコなどの遊具がありますので、遊具の使い方を教え、外遊びを行いました。

松本議員：例えば子ども会の人たちとか、青少年指導員とか、それから子どもとの関わりの深い団体、そのような関係の団体の協力をいただいて外遊びをすると地域と子どもたちとの関係が、そこで発見できると思います。地域との関わりはありますか。

稲葉こども家庭支援課長：青少年指導員は、お子さんの支援対象の年齢が高くなっていることもあり声掛け等はしていません。外遊びは乳幼児が主体となっていますので、今後検討したいと思います。

松本議員：乳幼児だけでなく幼稚園の子どもたちとか、ある程度年代を広げることはないのですか。あくまでも、乳幼児だけという形なのですか。

稲葉こども家庭支援課長：平日に行っていることもあり、幼稚園児や保育園児は登園している時間で行っている事情もあります。小さいお子さんが参加しているので午前中に行っていますが、もし年齢が高いお子さんで、かつ土日の開催となると地域子育て支援拠点と調整をいたします。

松本議員：子どもたちが自由に外で遊ぶ場所がないことから、家で引きこもっている子どもたちが多いため、乳幼児だけに限らず幼稚園児まで対象を広げていただいて、その子どもたちに外で遊ぶ場を提供していくことも、これから考えていただければと思っています。

横浜マイスター技能魅力発信事業ですが、これは毎年やっているのですか。

宮里区政推進課長：令和5年度をもって廃止となっています。

松本議員：マイスターの方々の素晴らしさ、技術の素晴らしさ、魅力を待つ技術がなかなかいきわたらないとのことで、マイスターの方々が実際はマイスターになっても横浜市への支援が足りないなどの不満があると聞いています。それからマイスターの方々がいかに素晴らしい技能を持っていて、これから中学生が、高校生・小学生もですが、例えば大工さんの仕事でこんなに素晴らしい仕事があると知る。それで将来子どもたちがそのマイスターの技術を身に付けて、自分がそれを育てていくというような、伝承をしていくことが必要だと思いますので、マイスター技能魅力発信を広げていただければと思っています。

議題3 令和6年度中区個性ある区づくり推進費事業執行状況について

伊波議員：はまっこトイレ設置をしている写真が載っています。地域防災拠点訓練のひとつだと思います。災害になると、何が大事かというところの受付ではなくて、トイレだと思っています。これは特に女性、男性もですけど生理現象は我慢できません。中区はまずトイレの設置でいく、と打ち出してもいいと思っています。空腹、のどの渇きもきついですけど、トイレの問題はすごく大変な部分だと思います。誰でもそこに行けばすぐ最初にトイレを利用できるように、避難所の開設では、受付ではなくて、まずトイレを設置できるようなシステムを中区から作っていただきたいと思っています。

小林区長：昨年横浜国大で防災国体が開かれまして、そのときに、先生の御指摘のとおり、食べるものは我慢できるけれどもトイレは我慢できない、それが避難生活の根幹になると講演を聞いてまいりました。毎年1回、全ての地域防災拠点の運営委員会の委員長が集まる会議を開いておりますが、今年度もその会議をすでに開催をしております、トイレの

設置について重点的にやっていただきたいとお願いをしています。これから始まる個別の防災拠点の訓練のなかで、引き続き支援していきたいと思っています。

伊波議員：子どもたち向けの夏休みイベントについてです。講座が今年はたくさん増えて、子どもたちの選択肢、御家族の選択肢が増えたと思います。みなとみらい線の見学、中区ならではと思います。みなとみらい線の見学の定員の30人はあっという間に締め切られたと思います。来年は人気のあったものについては枠を広げて、複数日選択できるような検討もされているということでしょうか。

宮里区政推進課長：参加者数については集計中ですが、今回定員を上回る応募があったものもございますので、次年度に向け定員の拡大などについて検討していきたいと思っています。

伊波議員：このような講座があるときに、区政推進課だけでやると大変なのかもしれませんが、どのような講座をやっているのかを、区の職員の皆さんも見ていただきたいと思います。このようなことをやっているのか、あるいは区の職員の皆さんが中区はこういうのがあるのかと、再発見の機会になるとと思います。皆さんで一丸となって、取り組んでいただければと思います。

おむつの自動販売機について、このようなことに取り組みされるのは中区ならではだと思えます。紙おむつを何枚も持って外出されることは大荷物になり、苦勞されていると思えます。このようなものが中区はあると、もっと広報して、活用していただきたい。取り替える場所が多目的トイレにありますということをおでかけマップなどにも記していただきたいと思えます。パマトコにはこういったものも載せられるようになっているのですか。

稲葉こども家庭支援課長：以前ハマハグにトイレや授乳室が掲載されていたと思えますが、同じように施設の情報としてパマトコに掲載されるようになっております。

伊波議員：100周年について説明がありました。中区は他の区としっかり盛り上げていく必要があると思えます。

前回の会議でも触れましたが、来年はT I C A Dがあります。中区にも多くのお客様がお見えになると思えます。あまり横浜市でT I C A DのPRができていないと思えます。T I C A Dに向けての取組は区として何か考えがあるのかお聞きします。

小林区長：国際局と話をし、8月20日にTICADの開催前1年を迎えましたので、別館1階で企画パネル展を実施しております。これまでのTICADの歴史や実績をわかりやすく展示しています。9枚のパネルで、期間限定となっています。外国人人口が18区の中で最も多く、中区も43人くらいアフリカの方が在住されていると把握していますので、PRに取り組んでいきたいと思ひます。

伊波議員：アフリカ開発会議なのでアフリカが軸になってきますけど、アフリカには非常に多くの国々があります。中区に住まれている方々に中区の魅力が海外に発信していただきたいと思ひます。

福島議員：食と暮らしの安全・安心事業についてですが、生活衛生関係施設の衛生対策を行います、とのことで毎年、いろいろな活動のことが記されていますが、HACCPの導入を推進しますという一言があります。令和3年から、HACCPが義務化になったと伺いました。

HACCPの導入を推進しますということは、義務化について、なかなか取組ができていないような状況があるのか、ということと、導入すべき対象はどのような施設、あるいは店舗になるのかということ、そして中区の現状について教えていただけたらと思ひます。

坂井生活衛生課長：令和3年6月からHACCPについては実施義務化となっています。HACCPについて十分に周知ができていない部分があります。全くやっていない、もしくは何も知らない、というところはそれほど多くはないですが、実際に確認させていただくと、まだ不十分なケースがかなり見受けられます。飲食店等の許可につきましては5年から8年の有期限の許可になっていて、その期限が終わりますと更新という制度になっています。ですので、どのお店も5年から8年の間に少なくとも1回は必ず確認させていただく機会があります。そのタイミングで順を追って、その許可調査をしながら今の実施状況の確認をしている実情です。

御指摘のとおり法律上の義務化というところに関しましては、3年前に施行しているところですが、程度問題で御理解いただければと思ひます。中区の状況としましては、およそ半分弱ぐらいはOKというところまで確認できているという状況になっております。それ以外のところは今改善指導中の部分と、まだ確認が十分できていない部分ということになっております。対象の施設につきましては、飲食店はもちろんですが、基本的には全ての食品関係施設に関してHACCPの適用は義務化

されているところです。専門的な工場であれば高いレベルのH A C C P、街中の飲食店等であればそれに準拠したようなレベルのプランを実施していく形になっています。

福島議員：レベルがあるということで、少し理解が進みました。大変対象が多いのが中区だと思います。体制など大変だと思いますので、よく御支援いただき、体制についてもチェックをお願いしたいと思った次第です。

地域包括ケアシステムの推進事業に関連して、認知症の人にやさしいまち中区ということを目指して、ロゴマークを作って推進をさせていただいているところですが、その推進内容については中区アクションプランの一番上にある地域包括ケアシステムの構築に向けた中区アクションプランの一環としてこの認知症についても進めていくと理解してよろしいのでしょうか。そして具体的に何かロゴマークを作った上で、一層推進する事業、テーマがございましたらお教えてください。

岩崎高齢・障害支援課長：去年1年かけてロゴマークを作りました。小学生の皆様から募集させていただいて、グッズ化がひとつずつ進みまして、今回バッジとシールを作らせていただいたところがまず第一弾です。グッズ・シールにつきましては、これからサポーター制度を進めていく中で、参加・協力いただく皆様のモチベーションの一助になるようなノベルティにしたいと思っております。また企業認証についても、現在80事業所ありますが、皆様にお送りさせていただきました。街中のいたるところにシールが見かけられるような、そんな中区になるといいと思っております。

御質問いただいた、アクションプランにおける位置付けですが、認知症施策についてもまちをあげてやっていくということに関しては御指摘のとおりです。このロゴマークの活動そのものはプランの中で具体的に予定したものではありませんが、地域の皆様の理解があって、それもできれば医学的な基礎知識もあって、認知症という病気が故のものだと、本人のせいではないものだと、例えばそのようなことを心に留められるかどうかだけでも接し方は変わると思います。15万人の区民の皆様に伝えていきたい取組として、サポーター養成講座をはじめこれまでも進めているところです。それをどう進めたらいいかというアイデアの一つだったのが、子どもたちと一緒にPRしていきたいとの思いで、ロゴマークを作ったところです。ロゴマークをどう活用するのか、

こういった使い方をすると面白いのではないか、など皆様にも伺いながら進めたいと思っております。

また、新しいテーマはどうかという視点につきましては、認知症サポーター養成講座は基礎的なことを一通り学ぶ講座です。この90分1コマでもしっかり学べるものですので、まずは大事にしていきたいのですが、去年は、若年性認知症の映画会や、当事者である丹野智文さんに来ていただいたの講演会、今年は7月にみなと赤十字病院の先生に来ていただいてMC I・軽度認知障害の講演会をさせていただきました。結構な御関心がありまして、100席用意をしたのですがすぐ埋まってしまいました。皆様の関心がどこにあるかについてもアンテナを高くしながら、その時々テーマについても取り込んでいきたいと思っております。

福島議員：私自身はずいぶん前に認知症サポーター養成講座を受けまして、オレンジリングを受講後にいただきました。ロゴマークのグッズも何か講座を受けたらいただけるような形でもいいと思っております。オレンジリングが一つのムーブメントになっていたのですが、どんどん進化しながら続いていると認識してよろしいのでしょうか。

岩崎高齢・障害支援課長：オレンジリングについては引き続きオレンジリングとしてあります。ロボのバッチなど、グッズも様々に展開があるところですが、無償でオレンジリングを配布することがなくなってしまい、最近あまり見なくなったという印象をお持ちかもしれません。今回のロゴマークも、例えばサポーター養成講座を受けていただいたら、中区と一緒に協力していくメンバーになったという思いも込めてお渡ししていきたいと思っております。中区の子どもたちが考えてくれたロゴマークでもありますので、グッズをきっかけの一つとして、家族みんなで認知症について考えてくれたらと思っております。

福島議員：法律が新しくなりまして、その取組の中では認知症になられても、若年性であっても軽度であっても、今までの暮らしが続けていけるように周りが理解を深めるということですがけれども、お聞きした中では高齢者の認知症が、家族にとっては非常にショックで、意思の疎通ができなくなり、今までの親御さんと違ってくるので、いらいらしたり、優しく対応できなくなったりするということだと。そのような中でどのように対応すればいいのかを勉強していける講座ができたらいいいと思えました。若年性認知症とか軽度認知症とかテーマを決めて取り組んでいただけるようですので、またテーマ別の取組を進めていただきたいと思います。

います。

STOPザ虐待事業に関連してですが、家庭内でDVということもあるのですが、DVにかかわらず特に女性の方が生きづらさを感じる場面がありますが、そうしたときに区役所でも女性相談員が御相談を受けることがあると思います。中区の相談員の方の配置状況と、現状も御説明いただけたらと思います。

稲葉こども家庭支援課長：女性相談員の配置状況ですが、中区につきましては2名配置しています。実際の相談の状況に関しては詳しい数字については今申し上げられないのですが、実態としまして、中区は観光地であり、横浜市の中心ということもあり、かなり他都市の方の相談が多い状況になっております。県外の方もいらっしゃいますし、観光で横浜のホテルに泊まっているので相談に来ました、という方もいます。今年度は中区にお住まいの方が半分くらい、中区以外の方等の相談が半分くらいとなっています。先生が仰ったようにDVの相談の方もいますし、親からの虐待の相談の方もいらっしゃいます。生活支援課にも相談されますが、それ以外に女性相談として相談もされています。

福島議員：困難を抱える女性に関する法律が4月から施行になりましたが、体制を充実していかなければいけないと思います。市民にとって、一番身近で具体的に相談に行くところは区役所だと思います。区の対応で現状で対応に困っていることや、課題として認識されていることがありましたら、例示をお願いしたいと思います。

稲葉こども家庭支援課長：例えば風俗店には県外から仕事にいらっしやって、その後妊娠が分かって相談にいらっしやる方がいます。住む場所がない、お金がない、出産する場所も決まってないということで一つひとつ決まっていなことを解決しながら支援する必要があります。課題となっています。県外からの方に関しては遠隔での支援の大変さがあります。

福島議員：その場合はどのようにされるのでしょうか。

稲葉こども家庭支援課長：代理人として弁護士にお願いをしていただくこととなります。あとは実際にその方がどのような生活を送りたいかということを含めて相談させていただいて、横浜市内に住んでいくのか、もしくは別のところに住みたいという方も結構いらっしゃいますので、そのような支援をします。

福島議員：そのアレンジは全部区役所の中のメンバーでできるのですか。

稲葉こども家庭支援課長：区内では生活支援課等と連携しますし、例えば

その方が入所された場合はその入所している施設の方、法律事務所など、いろいろな機関と連携しています。

福島議員：相談の人数は公表できる資料はございますか。

稲葉こども家庭支援課長：確認させていただきます。

福島議員：県外の方の相談も多いとのこと、中区の特徴だと認識いたしました。相談件数も多く、区役所だけで対応しきれないことだと思いました。子ども青少年局等との連携が重要だと感じました。

伊波議員：福島先生の言われたことは大事なことだと思います。子ども青少年局としっかり連携出来ていますか。

稲葉こども家庭支援課長：難しいケースなどの対応もありますので、子ども青少年局とは相談をして対応しております。

伊波議員：そこの認識を子ども青少年局も把握して、横浜市全体としての支援が必要だと思います。中区の特徴だと思いますので、しっかり把握していただいて、中区全体として捉えてください。中区は横浜市の縮図だと思います。中区役所を経験されれば横浜市のどの部署に行ってもOKだ、そのような認識もしておりますし、知見と経験を活かしていただきたいと思います。

議題4 令和7年度中区個性ある区づくり推進費予算編成の考え方について

福島議員：10月からプラスチックの収集、分別、出し方が変わりますけれども、これについては何かございませんか。

松本地域振興課資源化推進担当課長：現在、市民へのプラスチックの分別の周知をしております。春以降、各種イベント、店頭での啓発、区役所の関係ですと、1歳半、3歳の乳幼児健診の会場で、保護者にチラシを配布してお知らせしています。また学校等の環境学習でもお子さんたちにお伝えしつつ、地域からの要望により、説明会も開催しております。33回説明会を予定する中で、これまでに19回行って、今月残りを実施する予定になっています。今のところ特に大きな問題は生じておりませんので、市民の方にわかりやすく周知を進めていきたいと考えております。

福島議員：プラスチックの使われた製品と一緒に出てきそうなモバイルバ

ッテリーによる火災の心配とか、関連でペットボトルの帯とキャップの取外しについても、しっかり推進しなければいけないと思います。セットになるのですが、エコキャップ活動が盛んに行われていたけど、タイアップしてキャップを外してそのような団体に出すというような取組をされるとペットボトルのボトル to ボトルの取組も進むと考えます。中事務所として具体化は無いのでしょうか。

松本地域振興課資源化推進担当課長：キャップだけを分別して他の団体に提供する、あるいは連携している事業はないのですが、プラスチックごみは実は分別率が非常によろしくない状況です。缶・びん・ペットボトルの分別率が98.6%に対して、プラスチック製容器包装の分別率は61%で、特にコロナ禍で少し分別への意識が緩んでいる中で、さらなる分別の向上ということで考えております。他のプラスチックの分別拡大にあわせて、今行っているプラスチックの分別、特にキャップやペットボトルのラベルを剥がす、そのようなことも区民の皆様に啓発をしていますので、この分別の拡大、もしくは新しい分別や分別率の向上のためにも引き続き啓発していきたいと思っております。

福島議員：自治会町内会には環境推進委員さんという担当の方がいらっしゃいます。そのような方と以前にごみ集積所に集まって啓発活動をしたこともありました。今後はそのような活動も、自治会町内会に委託、依頼するような計画は具体的にはありませんか。

松本地域振興課資源化推進担当課長：以前は早朝啓発といって収集場所に出向いて地域の推進員さんと一緒にごみを出される方へ啓発もやっていたけれども、分別の協力が進んだということで現在はやっておりません。地域から要望等があれば私たちも協力させていただきますし、個別の排出状況の悪い集積場所がありましたら御相談いただければ、地域の状況にあわせて対応してまいります。

伊波議員：収集業務にあたられている方から、集積場所ごとにここが守られていないとか、報告を受けたりされるのですか。

松本地域振興課資源化推進担当課長：日々の業務の中で報告を受けるシステムはあります。収集に伺っている区内の排出状況が悪いところは把握していますし、そのようなところでは市民の方から改善を求める声が多いので、御連絡いただければ、収集場所に分別を促す、あるいは排出マナーを促す掲出物を掲出したりしております。

伊波議員：連絡を待つのではなくて、こちらから皆さんに説明する機会を

設けるなどの取組が必要だと思えます。連絡を待つのではなく、こちらから出向くという認識ももっていただければと思えます。

松本地域振興課資源化推進担当課長：こちらからアプローチをかけるというのも非常に重要だと考えています。コロナ前までは開封調査を行っていたのですが、コロナの影響や衛生上の問題で中断していました。また分別拡大後も、分別徹底も含めまして、開封調査を含めて順次再開をしてまいりまして、その中で、こちらから地域へのアプローチも進めていきたいと考えています。

伊波議員：毎日の中で、地域の美化に務めていただき感謝を申し上げます。

その他 災害の発生状況について

伊波議員：横浜市の職員、区の皆さんもそうですし、私達議員もですが、第一に市民の命を守っていくこと、生命財産を守っていくことが第一の使命だと思えます。救急搬送ですが、過去も申し上げているのですが、ほぼ毎年、過去最多を更新していると認識しております。今年もそのような捉え方でいいでしょうか。

田邊中消防署長：中区につきましても4月5月の時点では200件から300件昨年比べて多かったのですが、ここにきて減ってきているということをお考えますと、このあと感染症等がどうなるかわかりませんが、1年を通すと中区は減るのではないかと考えています。市内全体で見ると、減にはならないと思えます。

伊波議員：毎度119番受理、搬送の指令、出動、現着があつて、病院という形になりますけど、最新だと何秒に1台の出動件数になっていますか。

田邊中消防署長：今データを持ち合わせていませんので、また改めて御説明いたします。

伊波議員：皆さんが働いている中区では、例えば3秒に1台が出ているとか、そのようなことは知っていていいのではと思っています。中消防署から様々なデータを共有されるのがいいのではないかと考えています。

火災について、たばこが原因となるものが市全体でも多いですが、いわゆる紙たばこだと思えます。これは自宅での火災という捉え方でいいでしょうか。

田邊中消防署長：自宅での寝たばこもありますし、ちゃんと処理をしな

ったために起きるといふこともありますが、屋外でのたばこの不始末が雑草等に燃えうつるといふこともあります。

伊波議員：放火とまでは言い切れませんが、不審火的なものでしょうか。

田邊中消防署長：ポイ捨てによる火災もあります。

伊波議員：公園が禁煙になっていく中で、232 億円のたばこ税からの歳入が横浜市に入ってきています。火災という現実問題として第1位でたばこが上がっているといふことは、一律的に「たばこはだめだ」ではなく、たばこを吸える場所を作る必要もあるのではないかと思います。喫煙される方々は不便な場所でもたばこを吸える場所があればそこで吸われると思います。

松本議員：たばこの件について、資源循環局でたばこを吸える場所を作っても、そこで吸わないで路上で吸っている方が結構います。そこに一応喫煙所に関する看板を出しているにもかかわらず、その場所で吸っている方がいるという認識をもっていますが、ポイ捨てといふのは地面に捨てるのが違反であって、ポイ捨てしないでたばこを自分の携帯の灰皿に捨てさえすれば、禁止区域の場所でも吸っていい、という認識の方もいるので、注意が難しいと思います。しかし、基本的には禁煙地域に指定されている場所であれば、そこで吸ってはいけないはずですが、今後、禁煙指定地域を増やす方向といふのはありますか。

松本地域振興課資源化推進担当課長：所管は資源循環局街の美化推進課となっております。受動喫煙の所管は健康福祉局と守備範囲が違いますが、そういった要望を踏まえて、検討していると聞いています。

松本議員：指示を出す方は大変かもしれませんが、喫煙所があるのにもかかわらず、その付近で、路上で吸っている方には注意を促していくといふことも必要かと思います。お忙しいと思いますが、御指導いただければと思います。

熱中症搬送のことで教えていただきたいのですが、救急車を要請する場合には、例えば意識不明だとか、血が出ていれば迷わずに呼ぶと思うのですが、熱中症の場合、どのような視点で救急車を呼んだらいいですか。どのような状況だと呼んだ方がいいなどありますか。

田邊中消防署長：熱中症はいろいろな症状が出てくるのですが、手足のしびれや、強い頭痛がある場合には、救急車を呼んだ方がよいと思います。年齢によっても違いますので、御年配の方だと一気に症状が悪化する可能性もありますので、救急車を呼んでいただくか、分からない場合は#

	<p>7119 に相談ください。</p> <p>松本議員：熱中症の処置は、例えば首のまわりの血管やその周辺を冷たいタオルで冷やすとか、即座にそのような対応をしたけれど、そのまま放置していいのか、呼んだらいいのか不安があったので、迷った場合は呼んだほうがいいですね。</p> <p>田邊中消防署長：悪化する可能性があるので、呼んでいただきたいと思います。そのような症状が出た場合には 119 番いただければ相談にのることができると思います。</p> <p>木村福祉保健センター長：年齢や状況というのは様々ですので、そのような場合には、救急で相談いただくあるいは、実際に血圧なり測った上で、それで大丈夫かどうかということがある場合も多いかと思います。気になったときにはすぐに電話で相談していただく対応がよろしいと思います。</p> <p>福島議員：その他に、皆様から何かご発言はございますか。特にないようですので、本日の議題は全て終了いたします。</p>
備 考	